

東洋水産グループ
コミュニケーションレポート

2021

第73期 [2020年4月～2021年3月]



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

“食を通じ、皆さまに**笑顔**をお届けしたい”

次世代に
笑顔

地球に
笑顔

社会に
笑顔

お客さまに
笑顔



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

“食を通じ、皆さまに笑顔をお届けしたい”

私たち東洋水産グループは、

その想いをマルちゃんマークに込め、

品質とおいしさにこだわった食品づくりに取り組んでまいりました。

自然に笑顔があふれるようなおいしさを、食卓へ。

いつまでも変わらず、安全で安心な製品を、世の中へ。

“すべては、笑顔のために。”

私たちはこれからも取り組んでまいります。

社員に
笑顔

東洋水産グループ CSR 活動方針

東洋水産グループは、『「やる気と誠意」をもって事にあたり、「公明正大」であること』を**社是**とし、「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」をスローガンに、「食」を通じて、すべてのステークホルダーの皆さまに笑顔をお届けしたいと考えています。

事業活動を通じた社会課題の解決により、社会や環境と共存し、「笑顔」という言葉がすぐに連想できる企業グループを目指し、東洋水産グループらしいCSR活動に励みます。



表紙の写真は、2020年度に実施したCSR活動、社内イベントと商品の加工委託先の皆さんの写真です。

目次

- | | |
|--|---|
| 01 東洋水産グループ
スローガン | 11-12 次世代に笑顔 |
| 02 東洋水産グループ
CSR 活動方針・目次・
編集方針 | 13-16 地球に笑顔 |
| 03-04 TOP MESSAGE | 17-18 社員に笑顔 |
| 05-06 特集 マルちゃん正麺
皆さまに愛されて
10周年! | 19-22 My Smile Voice |
| 07-08 お客さまに笑顔 | 23-24 コーポレート・ガバナンス |
| 09-10 社会に笑顔 | 25-26 数字で見る
東洋水産グループ |
| | 27-30 決算情報、
セグメント別概要・
会社概要 |

編集方針

東洋水産グループは、幅広いステークホルダーの皆さまに、東洋水産グループをより知っていただくため、2015年度より「コミュニケーションレポート」を発行しています。本誌では、グループのスローガンである「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」の実現に向けた事業活動の内容を「5つの笑顔」を中心に構成し、具体的な事例と併せてわかりやすくご紹介することを目指しています。持続的な成長に向けた様々な取り組みを、ステークホルダーの皆さまにご理解いただければ幸いです。

下記URLのウェブサイトでは、こちらに掲載されていない取り組みについてもご紹介しています。また、「コミュニケーションレポート」は、バックナンバーを含め、当社のウェブサイトからダウンロードできるPDFファイルをご用意しています。必要に応じてご活用ください。

<https://www.maruchan.co.jp/csr/>

「笑顔」と「健康」をお届けできる会社を目指して Smiles for All. すべては、笑顔のために。



2020年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって世界中で多くの方々の生活に大きな変化が起こり、食に対する意識と行動にも、健康意識の高まりや内食需要の拡大など様々な変化がありました。2021年度も、東洋水産グループは安全・安心な食の提供を追求するとともに、消費者やお取引先、そして社会の変化に対応した取り組みをこれまで以上に強化することで、新しい日常における食文化づくり、社会づくり、SDGs達成に貢献してまいります。

2019年度から2021年度の3カ年中期経営計画では、3つの基本戦略に基づいた施策を行っています。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会やライフスタイルの変化への対応に取り組んでいます。

そのような中、2年目の2020年度の業績は、家庭内調理機会の増加などによる需要拡大に対応したことで、売上高、営業利益、経常利益、純利益それぞれが過去最高を上回る結果となりました。

いまだ新型コロナウイルス感染症による影響は不透明で対応が必要ですが、中長期では、社会課題に目を向けた健康価値の高い商品の開発、店頭や家庭内でのフードロス削減への貢献、気温上昇や災害時への備

え、地域社会との連携の深化にも継続して取り組んでまいります。

東洋水産グループは、次期3カ年中期経営計画がスタートする2022年度に創業70周年を迎えます。

これからも変わらず皆さまに信頼される、誠実なグループであり続けること、そしていままで以上に「笑顔」と「健康」をお届けすることを目指し、弛まぬ努力を続けてまいります。

今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 今村 将也

「食」を通じた事業

事業戦略

「食」の事業を通じ「5つの笑顔」の実現を目指します

社会課題
気候変動
食糧問題
など



2019-2021年度 中期経営計画

基本戦略

- 需要を引き出す新たな価値創造
- 海外展開の深化
- 経営基盤の強化

2020年度実績
売上高**4,175**億円
営業利益**365**億円

「5つの笑顔」の実現に向けての重要課題



新3カ年中期経営計画

2022-2024年度

東洋水産グループの持続的な成長

SDGs達成への貢献

特集

マルちゃん 正麺

せい めん

皆さまに愛されて 10周年!

「マルちゃん正麺」は2011年、「いま抜群においしく、そして10年後、20年後も古びることなく愛され続ける即席麺」をコンセプトに誕生しました。以来、皆さまに愛されて10年。即席麺の新たなスタンダードとして、食卓に笑顔をお届けしています。



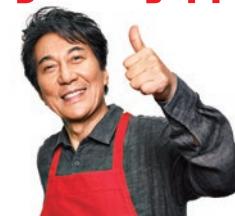
笑顔の理由2

家事負担の
軽減

ひと工夫して
「チャチャッと手料理!」食卓が**笑顔に!**

ご家庭で好きな食材を自由にプラスして食べていただくことを想定した「味の余白設計」。どんなアレンジにもマッチするおいしさを追求して開発しました。忙しいときでも、ひと手間加えるだけでおいしい手料理をつくることができます。バリエーション豊かな調理方法で、食卓が笑顔に!

家族が喜ぶ、ひと工夫
チャチャッと手料理。



笑顔の理由3

食べ飽きない
おいしさ

いつでも楽しめるおいしさに、みんなが**笑顔に!**

毎日食べても食べ飽きないスープを目指しました。濃すぎず、薄すぎない優しい味わいです。飽きがこないおいしさだからこそ、長くご家庭で楽しんでいただけます! 保存性の高い即席麺ですからローリングストックにも最適です。



笑顔の理由1

特許製法

マルちゃん正麺だけの特許製法だから食べると**笑顔に!**

5年にわたる試行錯誤の末、乾燥麺でありながら生麺のような、なめらかさとコシのある食感をお楽しみいただける製法を開発。専任の開発チームがこれまでの製法を一から見直した結果、切り出した生の麺をそのまま乾燥させるマルちゃん正麺だけの特許製法「生麺うまいまま製法」が完成しました。



当社独自の
特許製法
「生麺うまい
まま製法」



これからも愛されるマルちゃん正麺を

2019年より「チャチャッと手料理」という取り組みを進めてまいりましたが、自宅での内食化・調理需要拡大により市場が伸び、今後も生活環境の変化に伴い継続すると考えられます。マルちゃん正麺の品質だからこそ、手軽においしくを実現すべく、これからも取り組んでいきます。





東洋水産グループの商品を手に笑顔

お客さまに笑顔

お客さまが笑顔になる商品づくりを目指して

安全・安心でおいしい商品を提供することにより、お客さまが笑顔になる食生活を守ります。

3 すべての人に健康と福祉を

5 ジェンダー平等を實現しよう

12 つくる責任 つかう責任

WEB 「お客さまに笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからご覧いただけます。

商品について
<https://www.maruchan.co.jp/products/>
 安全・安心への取り組みについて
<https://www.maruchan.co.jp/csr/safety/>

主な取り組み

新たなる食文化の創造と育成

- 1 安全・安心な食の提供
- 2 健康寿命延伸への貢献
- 3 社会課題解決商品の開発

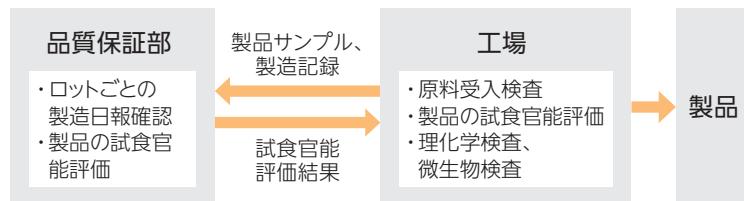
安全・安心な食の提供

お客さまに安全・安心な商品をお届けするため、FSSC22000やISO9001など第三者機関による認証取得を推進し、商品の開発から製造・出荷まで品質を保証する体制を整えています。

製造時の安全・安心だけでなく、商品開発時に、常温・チルド・冷凍といった流通温度帯が異なる商品ごとに成分分析検査、保存検査の試験を行っています。日数が経過するにつれて、味、香り、外観等がどのように経時的に変化していくか、継続的な試食官能評価を行い、賞味期間中の安全と安心を確認しています。

品質保証部では、製造日報等の確認や抜き取り製品の試食官能評価を行い、製造工場とのダブルチェック体制を構築しています。また定期的に工場点検および衛生監査を実施し、品質情報の共有化や品質管理レベルの維持・改善を図っています。

品質保証部と工場のダブルチェックによる品質管理体制



健康寿命延伸への貢献

健康長寿社会の実現に向けて、減塩や機能性表示食品の強化はもとより、野菜や玄米・麦・雑穀といった素材や各種栄養機能に注目し、様々な消費者ニーズ、売場展開に対応する健康を意識した商品群の開発を進めています。また、水産素材や、だしにこだわってきた東洋水産グループの強みを活かした商品など、グループ全体の力を活かし、商品開発を進めています。超高齢化社会を見据え、これからも健康を意識しながら「食の楽しみ」につながる商品を拡充していきます。



うまいつゆ 塩分オフ
きつねうどん



マルちゃん焼そば 減塩
1人前(ソース付)



玄米と麦のぞうすい
まめ入り



パリパリ無限
キャベツのもと 1食入



玄米ごはん



赤魚のアクアパッツア



三種のだし仕込みさば

社会課題解決商品の開発

働き方や世帯における家族構成の変化、社会環境そして自然環境の変化から起こる様々な社会課題を見据え、時短、簡便、個食など、変化し続けるニーズに対応した商品の提供を行っています。また、災害を想定し、いつもの「おいしい」を「もしも」に役立ててもらうための、普段からの備えとなる「ローリングストック」を提案しています。さらに2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により在宅時間が増え、内食中心の食生活となったことから、ご家庭での調理を応援すべく、当社ウェブサイトやSNSの公式アカウントでレシピの紹介などを行っています。お客さまが求める「価値の変化」に対応した商品を提供することで、お客さまに笑顔をお届けしたいと考えています。



マルちゃん焼そば 週替わり
とっておきレシピBook



マルちゃん焼そばの
SNSレシピサイト



食品ロス削減をテーマとした東京大学との取り組みの様子

社会に笑顔

地域に根ざした社会貢献活動への取り組み

それぞれの国や地域の皆さまと連携し、持続可能な社会の実現と皆さまの笑顔に貢献します。

2 気候をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

12 つくる責任 つかう責任

「社会に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからご覧いただけます。
<https://www.maruchan.co.jp/csr/society/fundraising/>

主な取り組み

循環型社会への貢献

- 1 食品ロスの削減
- 2 地域社会へのCSR活動
- 3 持続可能な資材の調達

食品ロスの削減

東洋水産グループでは、食品ロスの削減に向けて、様々な取り組みを行っています。科学的な保存試験の結果に基づき、調味料やフリーズドライスープ、チルド麺商品の一部の賞味期限の延長や年月表示の実施をしています。他にも、ご家庭の冷蔵庫で余りがちな野菜などの常備食材の消費を促進する商品を開発しています。また、製造上のロスをなくす取り組みを日々行うとともに、商品在庫についても、より精度の高い生産・在庫管理の実施や、フードバンクや子ども食堂への提供を行っています。商品開発、製造、流通、家庭、それぞれの段階で食品ロス削減に貢献する取り組みを進めています。

賞味期限を延長した商品の一例

<p>北の味わい ざるラーメン 和風つゆ 2人前</p> <p>賞味期限 21日 → 30日</p> <p>9日延長</p>	<p>素材のチカラ もずくスープ 5食入</p> <p>賞味期限 12ヶ月 → 18ヶ月</p> <p>6ヶ月延長</p>	<p>お鍋にポン キムチ鍋つゆ</p> <p>賞味期限 8ヶ月 → 10ヶ月</p> <p>2ヶ月延長</p>
---	--	--

地域社会へのCSR活動

近隣地域の方を対象とした工場見学の受け入れ、事業所近隣での清掃活動やスポーツなどのイベントの支援や協賛などを行っています。また、各事業所と地方自治体と、パートナーシップ協定や災害時協定、災害時の緊急避難場所の提供などの取り組みを行っています。例えば、関東工場では、所在地の群馬県館林市と「災害時における物資供給等に関する協定」を締結し、災害時の救援物資支援や、水害等の災害発生時に工場管理棟を避難場所として提供する協定を結んでいます。また、メキシコのMARUCHAN DE MEXICO, S.A.DE C.V.では、2006年度から毎年、青少年育成のために活動しているボーイスカウト団体に寄付を行い、活動をサポートしています。2020年度は初めて同団体のアートイベント(オンラインにて開催)に参加しました。イベントでは、当社が行っているリサイクルアートキャンペーン「SOPART(ソパアート)」を紹介し、当社商品のパッケージを活用したアート作品の作り方を実演しました。



当社商品パッケージを使用したリサイクルアート作品

持続可能な資材の調達

環境・社会・人権等に配慮した持続可能な資材の調達として、国内外でパーム油、水産原料と紙資源から取り組みを開始しています。パーム油については2019年1月に東洋水産グループとしてRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟し、2020年度には、米国のMARUCHAN, INC.が使用するパーム油をRSPO認証品*へ切り替えました。また、ディア工場でRSPOサプライチェーン認証を取得し、国内においても(株)酒悦 房総工場で同認証を取得しました。2030年度末を目標に持続可能なパーム油への切り替えを目指し、今後もサプライチェーン認証の取得事業所を拡大していきます。海洋資源の持続可能性についても取り組んでいます。水産資源保全と海洋環境保全を目的として漁業管理されたMSC認証原料を取り扱っています。2020年度は米国のグループ会社であるPAC-MARU, INC.で買い付ける鮭鱒卵の内、約90%がMSC認証を受けた原料となっています。紙資源についても商品の梱包に使う段ボールや紙製のパッケージの一部をFSC認証紙に切り替えています。

*ブック&クリーム方式による認証



2020年度にサプライチェーン認証を取得したMARUCHAN, INC. ディア工場



「スマイル
“フード”
プロジェクト
in 東北」
優勝チームとの
商品化打ち合わせ
の様子

次世代に 笑顔

子どもたちの笑顔のために、 健やかな成長をサポート

食を通じて、次世代を担う子どもたちの心と体の健やかな成長をサポートし、明るい笑顔を守ります。



「次世代に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからもご覧いただけます。

<https://www.maruchan.co.jp/csr/society/fundraising/>

次世代との融合

主な
取り組み

- 1 出張授業や工場見学会
- 2 企業訪問の受け入れ
- 3 スポーツ支援

出張授業や工場見学会

出張授業や工場見学会を通じて食についての知識と食文化を伝えるための活動や、東洋水産グループの事業を地域の皆さまに知っていただくための活動をしています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、工場での見学会は行えませんが、オンラインでの出張授業やバーチャル工場見学などを実施しました。

「スマイル“フード”プロジェクト in 東北」

2015年度より、東北地区の高校生を対象に、地域の特色を活かしたスープメニューの商品アイデアコンテストを実施しています。例年は決勝大会を東京で実施していましたが、2020年度は参加者の地元である東北地方（仙台市）にて新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで実施しました。



2020年度「スマイル“フード”プロジェクト in 東北」決勝大会参加者

工場見学学習会と出張授業

相模工場では、2013年度より地元の伊勢原市周辺の小学校を対象として「マルちゃん焼そば 3人前」を使い、製造工程や食育を学ぶ工場見学学習会と、小学校へ出向いての出張授業を実施しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの出張授業を行い、9つの小学校の児童594人が参加しました。出張授業では、相模工場とWeb会議システムでつなぎ、製造工程の説明や工場での安全・安心への取り組みを説明しました。また、2018年度より伊勢原市の教育委員会と協力し、市内の小学生に配布する社会科副読本に、相模工場で製造している商品や仕事の内容、衛生面で気を付けていることなどを紹介しています。



相模工場近隣の小学校での出張授業の様子

企業訪問の受け入れ

学生のインターンシップ、キャリア教育・職業教育に協力し、職場実習を受け入れています。関西工場では8月にインターンシップとして高等専門学校の学生を受け入れ、食品メーカーとしての当社の役割や事業内容を説明し、製造実習での「気づき」を提案してもらうプレゼンテーションの機会などを設けました。他にも本社ビルでは、修学旅行生の学生訪問を受け入れています。また昨年度に引き続き、東京大学大学院農学生命科学研究科の教育プログラムである100年後の地球を支えるための人材育成を目指す「One Earth Guardians (OEG) 育成プログラム」に賛同し、今年2年目となる実学研修を関東工場で開催しました。

スポーツ支援

全日本柔道連盟のオフィシャルサプライヤーとして、柔道を通じ、将来を担う子どもたちの心身の健全育成の支援を目的に、全日本柔道連盟や各都道府県の柔道連盟にご協力をいただき、1986年より「マルちゃん杯少年柔道大会」を開催しています。（2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により大会を自粛しています。）

「マルちゃん杯少年柔道大会」につきましては、下記アドレスからもご覧いただけます。
<https://www.maruchan.co.jp/event/maruchan/>



関東工場で実施した「ピオトープでSDGs」クイズラリーの様子

地球に笑顔

地球の笑顔のために、環境負荷を低減

グループ全体で環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、豊かな地球環境と未来の笑顔を守ります。

6 安全な水とトイレを世界中に	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナーシップで目標を達成しよう

「地球に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからもご覧いただけます。

<https://www.maruchan.co.jp/csr/environment/index.html>

環境対応の推進

主な取り組み

- 1 地球温暖化対策
- 2 生物多様性の保全
- 3 水資源の保全

地球温暖化対策

気候変動の大きな要因となる地球温暖化に関連する環境負荷の低減に向け、生産活動だけではなく、資材調達や物流においても使用資材や、CO₂排出量の削減など継続的に取り組みを実施しています。工場では、製造工程でのCO₂排出量、冷蔵倉庫では、フロン冷媒の漏洩量の削減に向けた取り組みなどを行っています。商品の配送については、積載効率の向上や、商品の安定供給によるイレギュラー配送の削減等により、使用トラック台数を減らすことで、環境負荷の低減につなげています。また、新規施設の設計、建設にあたっては、稼働開始後の環境負荷が少ない設備を採用するなど、環境への影響にも配慮しています。



2020年4月より稼働した石狩新港物流センター（自然冷媒を採用）

CO₂排出量削減への取り組み

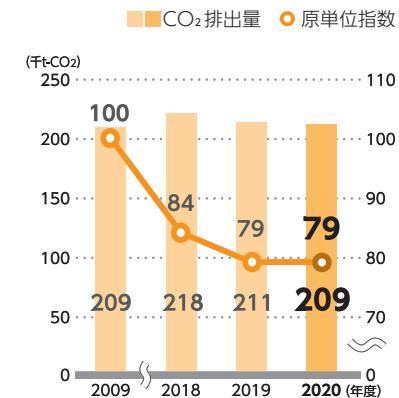
CO₂の排出量を減らすために、工場ではボイラー燃料を重油から天然ガスへ転換し、一部ではバイオマス発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用しています。各事業所では、省エネタイプの高効率機器の導入や、消費エネルギー量の少ないLED照明、営業車のエコカーへの切り替えなどを実施しています。その他、製造機器・冷凍機の効率的な運転や、事務所での不要時の消灯、エアコンの温度設定の徹底、エコドライブの推進などを実施しています。また物流面では、CO₂ガス排出による環境への負荷を考慮し、

状況に応じて鉄道や船舶等、輸送モードの選択を行っています。その他、空車運行トラックの削減や、他の食品メーカーとの共同配送も実施して、効率的な輸配送の実現に向けて取り組んでいます。



フクシマフーズ(株)の太陽光パネル

CO₂排出量と売上高原単位の推移



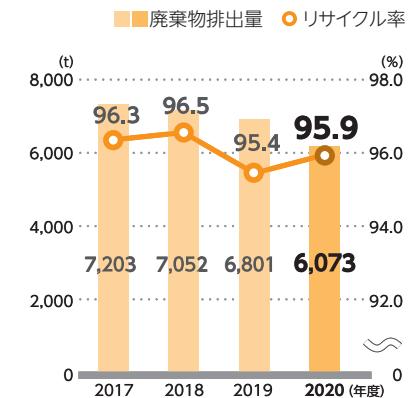
各事業所での省エネ推進やフロン漏洩削減取り組みにより排出量はやや減少しましたが、原単位はほぼ横ばいの状況となりました。

産業廃棄物排出量と再資源化率の推移



製造の安定化や一部工場での製造減により排出量は減少しましたが、埋め立て処分が発生したため、再資源化率は99.9%となりました。

食品廃棄物排出量とリサイクル率の推移

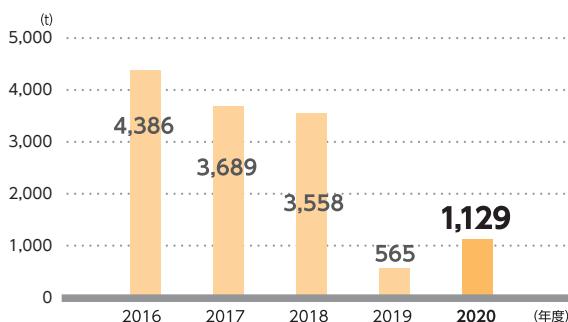


排出量は各工場での削減推進や一部工場での製造減により減少し、リサイクル率は目標値95%以上を継続しています。

フロン漏洩量削減への取り組み

2015年に施行された「フロン排出抑制法」に対応し、冷蔵倉庫においては温暖化への影響が少ない自然冷媒（アンモニア・CO₂）機器への切り替えを計画的に進めています。2020年度は舞洲冷蔵庫、湘南東洋（株）、スルガ東洋（株）の設備の交換を行いました。各事業所においては冷凍冷蔵機器および空調機器の点検・整備を徹底し、温暖化への影響の大きいフロン冷媒の漏洩防止に努めています。

● フロン漏洩量推移（CO₂換算）（東洋水産（株）単体）



2020年度の東洋水産（株）単体でのフロン漏洩量については、老朽化の進んだ空調機器等からの漏洩が増加した影響を受け、昨年度よりも漏洩量が増加しました。

生物多様性の保全

水産食品事業は当社創業の事業であり、海洋資源の保全は重要な使命のひとつだと考えています。河川や海岸の清掃活動をはじめ、様々な取り組みを行っています。

稚魚放流活動

1996年より田子工場周辺の海で、水産資源の保護・育成と水産業や観光業における地域活性化の一助となることを目指して、稚魚放流活動を行っています。カサゴやヒラメなど、これまでに約40万匹の稚魚を放流してきました。毎年、近隣住民の皆さまや西伊豆町の伊豆海認定こども園の園児にご参加いただいています。放流に先立ち、園児を対象として田子工場で製造している「かつお節について」と、静岡県水産・海洋技術研究所による「カサゴについて」の食育講座も実施しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、規模を縮小して実施しました。



西伊豆町での稚魚放流の様子

ウナギの養殖研究

1995年にウナギ、ハモ、アナゴなどの魚類の生態調査、人工的な産卵・孵化・仔魚飼育の可能性を探る研究機関「無足類研究所」（愛知県田原市江比間町）を設立しました。そして1996年、愛知県渥美半島の伊良湖岬に近い立地にちなみ、社名を「（株）いらご研究所」に改め、本格的な研究活動を開始しました。いらご研究所では、設立以来、ウナギの完全養殖の研究に取り組んでいます。2010年には「いらご研究所で生まれた仔魚を親魚まで育てて産卵させ、次世代の仔魚を得る」というウナギの繁殖サイクルの確立に成功しました。現在6世代目の仔魚を飼育しており、さらに完全養殖の量産化・事業化に向けて取り組んでいます。



（株）いらご研究所で産卵後孵化し、シラスウナギに変態中のウナギの仔魚（上）・変態後のシラスウナギ（下）

水資源の保全

東洋水産グループでは、持続可能な水資源利用を環境対策の推進における取り組みテーマのひとつとしています。

東洋水産グループの各工場では、水の使用量や排水量を継続的に管理し、使用量の削減に努めるとともに、工場からの排水を微生物処理により浄化して放流しています。埼玉工場では、設備の運用方法の改善により、生態系への影響がないよう、排水の温度を下げるなどして、環境への負荷を小さくしています。また、フクシマフーズ（株）では節水および排水削減への取り組みとして、排水処理の管理方法の見直しや製造工程で使用している冷却水の再利用、節水ノズルを使用した洗浄などを行っています。



埼玉工場の排水処理設備



第17回
TSグループ
大運動会

社員に 笑顔

社員一人ひとりが 笑顔で活躍できる職場づくり

多様な個性を持つ社員一人ひとりが、
能力を発揮し、健康で、笑顔になれる
企業グループを目指します。

3 すべての人に 健康と福祉を	5 ジェンダー平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も
-----------------------	------------------------	---------------------

「社員に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、
下記アドレスからご覧いただけます。

<https://www.maruchan.co.jp/csr/conduct/office.html>

主な
取り組み

健康経営のさらなる推進

- 1 働きがいのある職場づくり
- 2 **ダイバーシティ推進**
- 3 労働安全衛生

働きがいのある職場づくり

東洋水産グループでは、社員とその家族を対象とした健康経営の推進、そして組織・人材の活性化を継続し、働きがい、働きやすさの向上に取り組んでいます。

2020年度は、特に優良な健康経営を実践している企業等の法人を表彰する「健康経営優良法人」に、昨年度に引き続き(株)シマヤ、八戸東洋(株)が、今年度新たに、(株)酒悦が認定されました。また、毎年秋には、社員とその家族の健康推進と交流を目的としたTSグループ大運動会を実施しています。



第17回TSグループ大運動会での体力測定

ダイバーシティ推進

東洋水産グループは、多様な人材を活かし、その能力を最大限に発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげることを目指してダイバーシティの推進に取り組んでいます。そして社員一人ひとりが笑顔で活躍できることが、グループ全体の持続的成長につながると考えています。多様な背景を持つ社員が働き方を選べる制度の整備の他、社内での意識調査を実施しています。他にも、社内啓発として、ダイバーシティに関する勉強会、ポスター、リーフレットの作成や、社内報での情報発信なども行っています。また、雇用の機会を広げることで社会的責任を果たし、地域社会への貢献も行っています。



2020年度に掲示したポスターと配布したリーフレット

労働安全衛生

東洋水産グループでは、職場の労働安全衛生に積極的に取り組んでいます。2020年度は新型コロナウイルス感染症に対して、社員とその家族、お客さまの安全確保を最優先としました。また、緊急事態宣言の政府・社会からの要請に応え、事業活動を行いました。感染症対策としては、オフィスでの飛沫防止のパーティションやアルコール消毒液、非接触体温計などを設置しました。

全社的なIT環境を整備し、時差通勤やテレワーク、Web会議やWebセミナーの実施、ITを利用した社内コミュニケーションツールの活用などにより、社員の安全・安心な労働環境の確保に努めました。また、安全衛生委員会の設置や職場の巡回パトロールを実施し、働きやすい職場づくりに向けた取り組みを行っています。関西事業部の関西工場、大阪冷蔵部および九州事業部では、労働安全衛生を継続的に維持・向上するために、労働安全衛生の国際規格であるISO45001を取得しています。

社員の声を
届けます！

My Smile Voice



テーマ
1

5つの笑顔の実現に向けて

東洋水産グループは「食」の事業を通じ「5つの笑顔」の実現を目指しています。
「5つの笑顔」への取り組みに込められた社員の想いをお伝えします。

お客さまに笑顔



関東工場
蓬田 佳孝

コロナ禍でもより安全・安心な商品の安定供給を目指します

新型コロナウイルス感染症の影響で即席麺の需要が高まる中、工場内でもコロナ感染症対策を徹底し、工場一体となり、機械管理および製造管理を行っています。お客さまに、より安全・安心な商品を安定供給し、コロナに負けずに笑顔になれるよう努めてまいります。



赤いきつね
うどん



緑のたぬき
天そば



マルちゃん正麺
醤油味 5食パック

お客さまに笑顔



九州事業部福岡工場
波多江 祐次

FSSC22000を取得しました

2020年度に食品安全マネジメントシステム (FSSC 22000) を認証取得しました。食の安全を通じお客さまに笑顔をお届けするために、工場全体で取り組んだ結果です。今後も、一人ひとりが自分事として活用し食品安全に努めてまいります。



2020年度FSSC22000を取得した
福岡工場

社会に笑顔



東京支店
下川 慶次郎

オンライン商談にチャレンジしました

オンラインでの商談に、最初は戸惑いや不慣れな部分がありました。しかし対面の場合とは違い、移動時間が節約され、場所を選ばないという利点があります。普段はスケジュール調整が難しい場面でもうまく時間割を組み、効率的に実施できました。

次世代に笑顔



八戸東洋株式会社
向井 秀洋

八戸市内の小中学校でフリーズドライ出張授業を行いました

2015年度より八戸市内の小中学校を対象にフリーズドライ出張授業を実施しております。子どもたちが笑顔で講義やスープづくりに取り組む姿が見られ、「マルちゃんのファンになった」等のうれしい声も聞こえてきました。今後も地域社会との取り組みを大切に活動してまいります。



八戸市立白山台小学校での出張授業

次世代に笑顔



東北支店
岡本 洵

「スマイル“フード”プロジェクト in 東北2020」決勝大会に参加しました

初の東北（仙台市）開催となった決勝大会に参加し、高校生たちの大会にける情熱や、商品化までのプロセスを直接肌で感じる事ができました。この大会でもらった“生徒たちの元気”を、お客さまにお届けすることが、私たちの役目だと感じています。



「スマイル“フード”プロジェクト
in 東北2020」決勝大会

地球に笑顔



フクシマフーズ株式会社
鈴木 路恵

工場で节水活動を行っています

米飯商品の製造は多くの水を使用するため、节水活動に取り組みました。使用水を回収する設備の製作や循環装置を導入することで、冷却水を再利用することが可能となり、最大で1日当たり68tを节水することができました。これからも水資源を大切に活動が続けてまいります。



节水ノズルを使用したホースによる洗浄

地球に笑顔



湘南東洋株式会社
白井 拓末

フロン冷媒から自然冷媒に交換しました

地球温暖化・オゾン層破壊の原因となるフロン冷媒を、地球環境に優しい自然冷媒へ変更するため、冷蔵設備の入替工事を実施しました。新しい設備は省エネによるCO₂排出量削減効果も期待できます。これからも環境に配慮したサービスが提供できるよう取り組んでまいります。



自然冷媒使用冷却設備

社員に笑顔



株式会社酒悦
手塚 雅子

「健康経営優良法人2021」に認定されました

酒悦3事業所(本社・茨城工場・房総工場)は、東洋水産健康保険組合のサポートにより、「健康経営優良法人2021」の認定を取得いたしました。引き続き酒悦3事業所がひとつになり、これまでの取り組みを活用して働きがいのある職場づくりを行ってまいります。



健康経営
優良法人2021
認定証

テーマ 2

いま私たちにできること

新型コロナウイルス感染症の影響における、東洋水産グループの様々な取り組みに込められた社員の想いをお伝えします。

次世代に笑顔



相模工場
大野 洋平

工場周辺の小学校を対象にオンライン工場見学学習会を実施しました

今年度、初めてリモートで授業を行うことになり、機器の準備や設定等を担当しました。何度もテストを重ね準備し、大きなトラブルもなく、子どもたちの真剣な眼差しと弾ける笑顔を見ることができました。今後も食を通じて、多くの子どもたちの健全な育成に貢献していきたいと思えます。



リモートによる工場見学学習会の様子

社員に笑顔



生産本部
梅山 美和

在宅勤務の実施で時間のゆとりが生まれ、心のゆとりになりました

いつもは忙しい朝の時間に余裕ができて、笑顔で子どもを見送ることができるようになりました。昨年度保育園児だった下の子は、冬場も明るい時間に迎えに行くことができ、喜んでいました。高学年になった上の子の放課後の表情と過ごし方が見えたことも大きな収穫です。業務では、FAXや印刷ができない在宅勤務を経験することで、より効率的に業務を進めるスキルが身につきました。このスキルは入社時の業務の進め方にも大きなプラスになっています。

社員に笑顔



コンプライアンス部
蛸木 三佳

コンプライアンス勉強会をWeb会議システムを利用し、実施しました

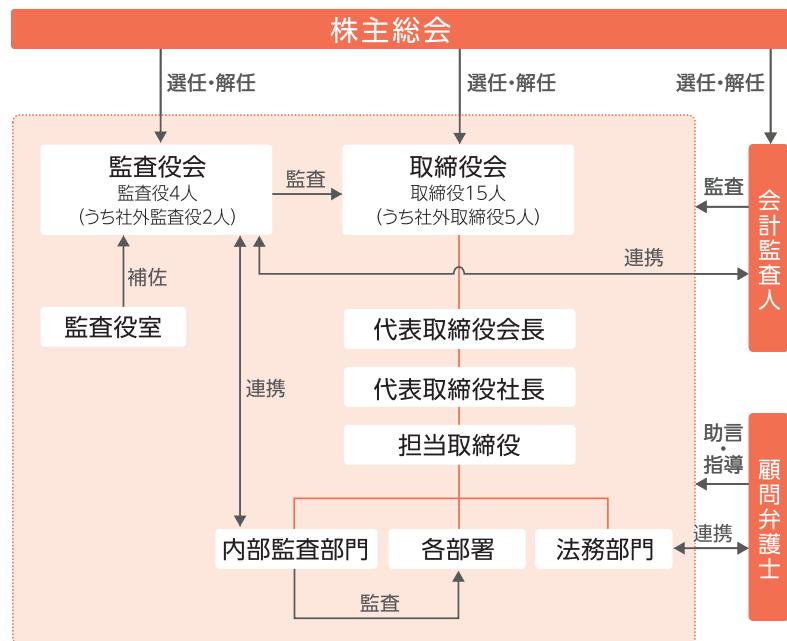
毎年各事業所に出張して実施するコンプライアンスの勉強会ですが、2020年度はWeb会議システムを利用し、パワハラに関する法改正等の説明をしました。より良い職場づくりには、一人ひとりの正しい知識と理解が必要ですので、今後も工夫して活動を続けてまいります。

コーポレート・ガバナンス

WEB
コーポレート・ガバナンスの取り組みにつきましては、
下記アドレスからもご覧いただけます。
<https://www.maruchan.co.jp/csr/conduct/governance.html>

コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題として認識し、取締役の責任および個別事業の責任体制を明確にしています。今後も経営の透明性および迅速性を確保していきます。

コーポレート・ガバナンス体制



内部統制システムとリスク管理

取締役および社員が企業倫理や社会的責任の重要性を認識し、関連法規および各種規定を順守するために内部統制システムを構築しており、業務が適切かつ

効率よく実行されるように常に見直しを行っています。リスク管理については、内在するリスクを把握・分析・評価したうえで適切に対策を実施しています。

財務報告に係る内部統制

東洋水産グループでは、金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」に対応するために、金融庁の基準に示されている内部統制の基本的な枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を構築してきました。

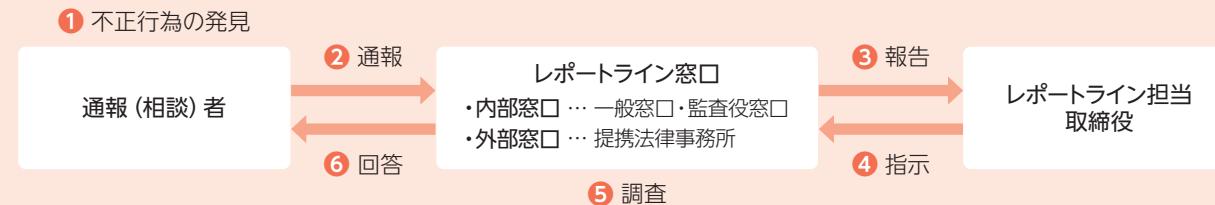
同制度の適用開始以降は、内部監査部門を中心に各業務分野に精通した社員で構成された評価チームが各部署・グループ会社の内部統制の有効性を評価しています。

コンプライアンス体制と内部通報制度の設置

東洋水産グループでは、コンプライアンスとは法令順守に限らず、社内ルール、良識・モラルといった社会倫理、道徳なども含めて守ることであり、「ステークホルダーの信用・信頼に応えること」であることを一人ひとりに浸透・実践させることが重要と考えています。コンプライアンスを推進していくために、コンプライアンスマニュアルを作成し、内容の周知・徹底や取締役および社員を対象とした全国の事業所を巡回して実施するコンプライアンス勉強会など、コンプライアンス教育に取り組んでいます。2020年度のコンプライアンス勉強会は6月に労働施策総合推進法（パワハラ防止法）が改正されたことを受け、改めてパワハラに対する正しい知識と、私たちの取るべき具体的な行動のヒントを学ぶ場となるよう実施しました。

また、法令違反や社内不正等、コンプライアンスに違反する行為の発生を防止または早期発見して是正することを目的に、内部通報制度「レポートライン」を設置しています。内部窓口（「一般窓口」「監査役窓口」と弁護士による外部窓口を設置し、通報者に不利益が及ばない仕組みを構築しています。

内部通報制度の仕組み



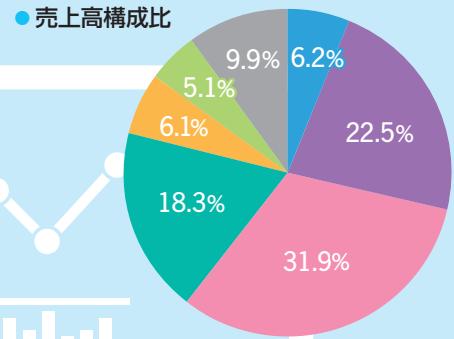
数字で見る 東洋水産グループ

2020
年度

売上高

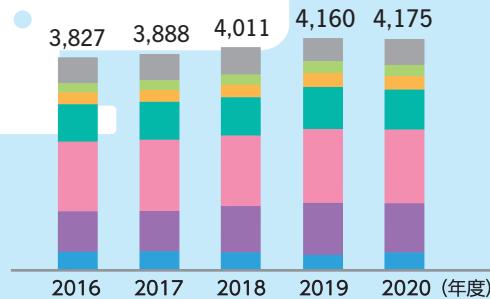
4,175 億円

売上高構成比



連結売上高の推移

(単位: 億円)



- 水産食品事業
- 低温食品事業
- 加工食品事業
- 冷蔵事業
- 海外即席麺事業
- 国内即席麺事業
- その他事業 (主に弁当・惣菜事業)

会社概要

連結従業員数

4,880 人

国内グループ会社

22 社

海外グループ会社

10 社

創立年

1953 年

安全・安心

FSSC 22000 取得状況*

2020年度まで

16 事業所



*新規だけでなく、登録範囲を拡大する取り組みを行った事業所も含めています。

環境データ

CO₂ 排出量

209 千t

産業廃棄物量

14,738 t

産業廃棄物の再資源化率

99.9%

エネルギー使用量

4,689 TJ

水使用量

5,194 千m³

冷蔵倉庫のフロンから自然冷媒への代替状況

2020年度まで

15 施設



環境目標

	2021年度目標	2020年度進捗
CO ₂ 排出量の削減 (原単位)	20%削減	14.1%削減
産業廃棄物量の削減 (原単位)	10%削減	7.9%削減
産業廃棄物の再資源化率の維持 (最終的にゼロエミッションの達成)	99.5%以上の維持	99.9%
フロン漏洩量の削減	83%削減	87.3%削減

※対象は国内グループ全体
 ※原単位は国内連結売上高を基準として算出
 ※削減目標については2011年度対比

決算情報、セグメント別概要

第73期(2020年度)の主要連結財務データとセグメント別の事業内容および決算概要をお知らせします。

第73期決算情報 売上高・利益の推移(単位:百万円)

	従来基準				新基準
	第70期 2017年度	第71期 2018年度	第72期 2019年度	第73期 2020年度	第74期 2021年度(予想)※
売上高	388,797	401,064	416,031	417,511 (340,700)	353,500
営業利益	26,652	23,661	28,348	36,460	33,500
売上高営業利益率	6.9%	5.9%	6.8%	8.7%	9.5%
経常利益	28,571	26,169	31,350	38,697	35,000
親会社株主に帰属する当期純利益	18,431	18,438	23,379	29,070	26,000

※2021年度(2022年3月期)より新収益認識基準を適用するため、2021年度の連結業績予想は新基準を適用した後の金額となります。また、2020年度売上高のカッコ内の数値は、新基準での概算数値(参考)となります。なお、営業利益以下に影響はございません。

セグメント別概要



事業内容

日本国内・海外からの良質な「海の幸」を安全・安心な商品づくりに基づきお届けしています。近年は、国内グループ会社の工場から産地や製法(ダシ・減塩等)にこだわった付加価値のある商品や、簡単便利・健康を意識した商品が開発され、店頭商品等に幅広く使用されています。



売上高
25,681百万円
(前期比14.0%減)
営業利益
15百万円



●2020年度の振り返り

外出自粛等による影響で、スーパー、宅配の需要は伸長したが、コンビニエンスストア、外食、ホテル向け需要が減退し減収。営業利益は、棚卸資産の評価見直しと適正価格での販売を進め増益。

●今後の取り組み

お客様のニーズと環境の変化に対応した商品開発、当社の総合力を生かした販売強化策を講じ、品質面に優れた競争力のある商品の販売に注力し、売上、利益の向上を目指します。



事業内容

1972年に米国に現地法人MARUCHAN, INC.を設立し、現在では米国に4ヶ所の製造拠点を構え、北米のみならず中南米等にまで広く商品を提供しています。販売シェア1位の米国・メキシコでのブランド強化に加え、ブラジル、インドでの販路開拓等、さらなる市場拡大に向けて取り組んでいます。



売上高(円ベース)
94,002百万円
(前期比5.6%増)
営業利益(円ベース)
16,103百万円
(前期比32.1%増)

売上高の推移(単位:億円)



●2020年度の振り返り

米国では新型コロナウイルス感染症拡大により即席麺の需要が高まった中、販売数量は堅調に推移し販促費削減により増収。メキシコでは袋麺の販売好調に加え、カップ麺は価格改定により増収。販売促進費抑制等により増益。

●今後の取り組み

国・エリア別に、消費者・小売・競合の状況を踏まえた商品・販売戦略を行います。テキサス工場に新ラインを設置、生産体制を強化。需要拡大への対応、新商品の市場投入にも積極的に取り組みます。



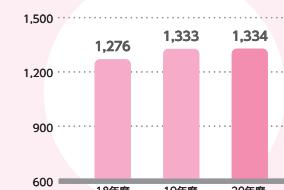
事業内容

国内即席麺事業は、1961年よりお客さまに様々なおいしさと価値をお届けしてきました。「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」等のロングセラー商品の他、2011年には「マルちゃん正麺」、2015年には「マルちゃん正麺 カップ」、2017年には「MARUCHAN QTTA」を発売し即席麺の新たなスタンダードの構築に貢献しました。



売上高
133,426百万円
(前期比0.1%増)
営業利益
13,310百万円
(前期比20.1%増)

売上高の推移(単位:億円)



●2020年度の振り返り

カップ麺は和風シリーズや「ごつ盛り」「MARUCHAN QTTA」が堅調に推移したが減収。袋麺は家庭での喫食機会増加で好調に推移し増収。原材料費、販売促進費、広告宣伝費等の削減により増益。

●今後の取り組み

ロングセラー商品の弛まぬ改善、新たな食文化の創造、カテゴリー別・エリア別・世代別戦略の実行により、さらなる市場拡大を目指します。



低温食品事業

事業内容

「おいしさの訴求(品質重視)」をテーマに、生麺・冷凍麺ならではの本格感を発信し、簡便性や健康ニーズに対して積極的に取り組んでいます。新規喫食シーン・新用途拡大のため、他カテゴリとクロス販売を仕掛けています。プロモーションも強化し、市場全体の底上げを図っていきます。



売上高
76,229百万円
(前期比5.4%増)
営業利益
6,824百万円
(前期比22.1%増)

売上高の推移(単位:億円)



●2020年度の振り返り

生麺は家庭での喫食機会の増加により、主力商品を中心とした市販商品が好調に推移。冷凍食品は業務用需要が減退したが、低温食品事業全体では増収。売上高の増加、原材料費の減少等により増益。

●今後の取り組み

既存商品の品質向上に取り組むとともに、新規商品開発に注力していきます。また、肉食需要が高まる中、生麺類の喫食機会を増やすため、メニュー提案の充実を図っていきます。



加工食品事業

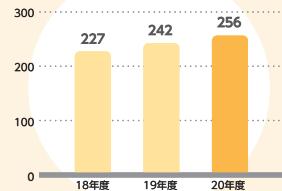
事業内容

1956年の魚肉ハム・ソーセージの生産により加工食品事業を開始しました。米飯事業では、無菌米飯やレトルト米飯にてバラエティ豊かで健康志向に応える商品を揃えています。その他にもフリーズドライ商品、だしの素・チャーハンの素といった調味料類等、広く商品展開しています。



売上高
25,609百万円
(前期比5.9%増)
営業損失
666百万円
(前期比641百万円改善)

売上高の推移(単位:億円)



●2020年度の振り返り

米飯は、白飯、味付けごはんシリーズ、健康系商品が好調。フリーズドライスープも「素材のチカラ」シリーズ等が好調で全体で増収。売上高の増加、原材料費の減少等により、損失額は改善。

●今後の取り組み

既存商品の販売と商品内容の見直しを行い、注目を集める「健康系商品」への積極的な展開や「簡便・時短・個食」といったお客さまのニーズに応えられる商品政策を進めます。



冷蔵事業

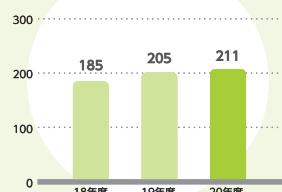
事業内容

冷蔵事業では、国内外の様々な食品を冷凍・冷蔵の適切な温度で保管・配送等を行う、物流サービスを提供しています。最新の保管・入出庫設備を備えた冷蔵倉庫を全国に展開しています。また、地球環境への負荷が少ない機械・設備の導入を進めることで、持続可能な社会の実現に努めています。



売上高
21,112百万円
(前期比2.8%増)
営業利益
1,239百万円
(前期比1.9%減)

売上高の推移(単位:億円)



●2020年度の振り返り

新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、保管商品の荷動きが低調となったものの、首都圏での市販用商品や配送サービス等の取り扱いが堅調に推移し増収。新冷蔵倉庫稼働に伴う減価償却費や人件費等の増加により減益。

●今後の取り組み

魅力ある物流サービスを積極的に提案し、安全で安心な保管サービスや充実した配送サービス等の機能強化に取り組めます。冷蔵倉庫の利用拡大と顧客満足度向上に努めていきます。

その他事業(主に弁当・惣菜事業)

売上高
41,448百万円
(前期比11.6%減)
営業利益
519百万円
(前期比40.4%減)

●2020年度の振り返り
弁当・惣菜事業の売上高減少等により、減収、減益。

●今後の取り組み
弁当・惣菜事業をはじめ、各グループ会社の継続的な強化と、グループシナジーを意識した取り組みを進めます。

会社概要(2021年3月31日現在)

社名	東洋水産株式会社 Toyo Suisan Kaisha, Ltd.
創立	1953年3月25日
資本金	189億69百万円
従業員数(連結)	4,880人
売上高(連結)	417,511百万円(2020年度)
本社	〒108-8501 東京都港区港南2丁目13番40号 TEL. 03-3458-5111(代表)

創業者	森 和夫
代表者	会長 堤 殷 社長 今村 将也
事業所数 (東洋水産(株)単体)	工場 8ヶ所、 冷凍冷蔵庫 17ヶ所、 支店・営業所 28ヶ所
グループ会社	32社(海外10社含む)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし電子公告できない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。 アドレス https://www.maruchan.co.jp/
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

東洋水産では、ウェブサイト内にIR専用サイトを設けています。決算説明会資料をはじめ、有価証券報告書、アニュアルレポートなどをご覧ください。

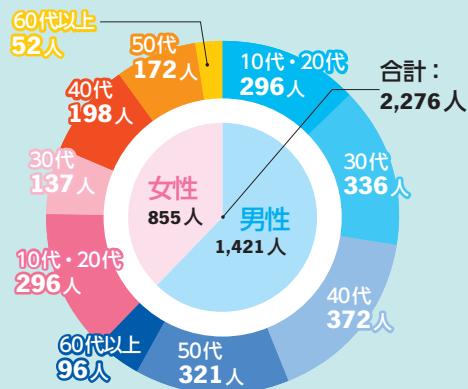
<https://www.maruchan.co.jp/ir/>



従業員データ

(2021年3月31日現在) 東洋水産単体

●従業員構成比



●平均年齢

40.4 歳

●平均勤続年数

15.3 年

●女性管理職(課長級以上)人数・比率

人数 **14** 人 / 比率 **5.5** %

●障がい者雇用人数・比率

人数 **52** 人 / 比率 **2.12** %

●育休取得率

男性 **4** % / 女性 **100** %

●管理職(課長級以上)に対するダイバーシティ勉強会実施回数*

20 回

●コンプライアンス勉強会実施回数*

222 回

※グループ会社での実施を含む